

1920s

1945

# 日本工芸の青春期展

Craft Movements in Japan  
1920s - 1945



北原 千鹿「羊置物」(1928) 個人蔵 撮影:藤川 清



芹沢 銈介「小川紙漉文着物」(1943)  
静岡市立芹沢銈介美術館蔵



板谷 波山「彩磁延寿文水指」(1942)  
東京国立近代美術館蔵 撮影:米田太三郎



山崎寛太郎「蝸牛寶石筆筥」京都市美術館蔵



佐々木象堂「鑄銅色繪鸚哥置物」(1940)  
新潟県立近代美術館蔵

## 1996年 5月24日(金)~6月23日(日)

開館時間/午前9時~午後5時(入室は午後4時30分まで) 初日は午前10時開展  
金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで) 月曜日は休館

入場料/一般700円・高大生400円・小中生200円  
(560円) (320円) (160円)

- ( )は前売りと20名以上の団体料金
- 高松市に住所を有する長寿手帳・身体障害者手帳または療育手帳所持者は無料
- 第2・第4土曜日は小・中・高生無料

### 高松市美術館

高松市紺屋町10-4  
Tel.(0878)23-1711

主催/高松市美術館・読売新聞大阪本社・西日本放送・  
美術館連絡協議会

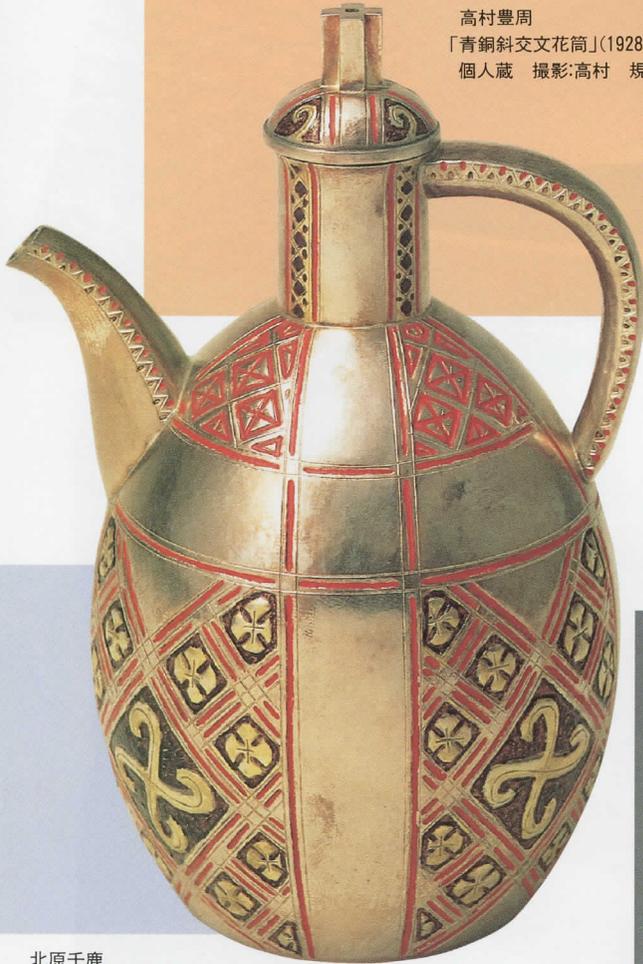
協賛/花王株式会社

# Craft Movements in Japan 1920s – 1945

鴨 政雄  
「金属製壁掛 風景」(1929)  
個人蔵 撮影:高橋 章



高村豊周  
「青銅斜交文花瓶」(1928)  
個人蔵 撮影:高村 規



北原千鹿  
「漆彩色卍文酒瓶」(昭和初期)  
京都国立近代美術館蔵

大正後期から昭和初期にかけては社会はまさに、激動の時代でした。戦時統制や不況打開のための産業合理化政策が実施された一方で、逆に個人主義が浸透することによって、都会を中心に洋風でモダンな生活様式が流行します。こうした複雑な社会情勢を背景として、工芸の世界でも個性的な表現を重要視した多彩な活動が展開されますが、それはまさしく「工芸の青春期」とも呼べる時代でした。

本展では、明確な作家意識をもち個性的な表現をめざした〈美術工芸〉、国による産業振興政策と連動して大量生産を推進した〈産業工芸〉、そして古くから伝わる民衆の日用品に美を見出し、質実な工芸を唱えた〈民芸〉、この三つの大きな工芸運動を中心に多角的な展開をみせた新興工芸の諸相を約160点の作品によって紹介するものです。



バーナード・リーチ  
「楽焼走兔図の大皿」(1919)  
大原美術館蔵



楠部彌式「色絵紅梅花瓶」(1937) 京都国立近代美術館蔵

## 記念講演会

### 「近代工芸と高松」

樋田豊次郎(東京国立近代美術館主任研究官)

日 時/6月2日(日) 午後1時30分から

場 所/高松市美術館講堂 入場料/無料(先着200名様)

## 次回展覧会のお知らせ

### 高松市美術館コレクション展

7月3日(水)~7月14日(日)

## 催し物のお知らせ

ミュージアム・ライブ「新良幸人パーシャクラブ」

9月5日(木) 午後6:30開演